

今週のテーマ
生活・文化

《毎週火曜日に掲載》

緋 研 教 室

メルボルの住みやすさ

松本大地／商い創造研究所・賑わい創研代表取締役

日本の約20倍の国土面積ながら、人口は2400万人のオーストラリア。その最大都市シドニーの490万人に次いで、450万人が暮らす第2の都市がメルボルンである。英誌エコノミストの調査部門「エコノミスト・インテリジェンス・ユニット」での世界で最も住みやすい都市ランキングで、昨年、一昨年はオーストラリアのウイーンに次いで第2位だったが、その前は7年連続で第1位に選出された。先般メルボルンを訪れた際、古さと新しさが混じった都市計画づくりによる街のエネルギが、世界で最も住みやすいと評価される源泉であると感得した。

七つのアーケード

ガーデンシティーと呼ばれるメルボルンらしく都市面積の4分の1もある多くの公園、都市を取り巻く多様な住宅、市内を歩行可能にするストリートカーの整備、公共図書館などの教育環境といった恵まれた生活インフラが充実している。加えて数々の常設市場、100を超える国からなるレストラン、パリをしのぐと言われる数のカフェ、街中のアート・アーケード、レインウェイ、ストリートファッショントーン、ストリートパフォーマンスといった生活カルチャーが同居し、高い生活の質と豊かに暮らせるリパブリシティー(住みやすい都市)が形成されていた。メルボルンならではの都市スタイルとして取り上げたいのが、「アーケード」と「レインウェイ」との関係性である。アーケードとは両側に店舗が並ぶ屋根付きの空間であり、国によってカレリア、パサージュ、バザール、キャノピー、プラザなどと呼ばれる。メルボルンではビルを突き抜け不意に現れるアーケードが七つもあり、それぞれが街の道具の役割を果たしている。

オーストラリアで最も優雅な小みちと称されるのが「ブロック・アーケード」。1893年に建てられたビクトリア様式に

Study Room



歴史の重厚感と魅力的な個店が集まるロイヤル・アーケード

建築は息を飲むエレガントな雰囲気が漂い、1字に入り組んだアーケードには、住民のライフスタイルに寄り添った紅茶とケーキ店、カフェ、スパイス、ブティック、理容室、生活雑貨が連なる美しいプロムナードだ。ブロック・アーケードを抜けていくと、1870年に建てられた最も古い「ロイヤル・アーケード」につながる。ルネッサンス様式のドーム型のアーケードはさらなる歴史を感じさせる重厚感がある。80歳を超える一本道のプロムナードには、魔法や魔術の専門店、マトリョーシカの専門店、工房付きの宝石店など個性的な物販から、カフェやマカロンスタンド、ビュティラーなどのショップがアーケードショップピングの楽しさを演出する。大規模なショッピングセンターに慣れた現代生活者にとって、可愛らしく親しみのある回廊で出会うドラマは新鮮な驚きだろう。

冗舌なストリートカルチャーの街

サブカルが存在感

アーケードの趣と対照的なのがレインウェイである。レインウェイは裏路地、裏小みちといったビルとビルの間や脇道に発生したスペースである。アーケードがメインカルチャーならば、レインウェイはいわばサブカルチャーとして若者の社会的エネルギを発散する自己表現のステージである。従来はゴミ置場や荷さばきの場所だったレインウェイの壁や道に描かれたストリートアートは、行政からは違法な落書きと一線を画したストリートカルチャーとして認められ、ガイドツアーもあるほどだ。行き止まりの「ランキンズ・レイン」ではロースタリーのあるカフェ、パスタバー、オーガニックコットンファッショントーンのベイシーク、ビュティラーなどの店舗が風景に収まり、スクーターズやヒップホップファッショントーン、古着店などはレインウェイとの相性が合う。



レインウェイは若者のコミュニティである。海上貨物運送コンテナを使ったキック

チン、木のパレットを重ねたテーブル、ビールだるのイスといったリサイクルされたものが使われ、夜になるとDJが登場し、クラブになる。06年からメルボルのサブカルチャーとしての存在感を發揮している。

異文化、多様性を尊重

メルボルの街には世代を超えて楽しめる居場所がダイナミックに広がっているのが特徴だ。それをかなえているのは多様性の尊重から生まれる親近感だろう。1850年代にゴールドラッシュに沸いたメルボルンには世界中からの移民がもたらした多種多様な文化が混ざり合い、異なる文化への好奇心や寛容さが築かれてきた。

アーケードとレインウェイの関係性を見ても、世代を超えた異文化によってそれぞれの居場所ができていく。生活のしやすさというリパブリシティーを生み出す街をつくるには、生き生きとした冗舌すぎるぐらいのストリートカルチャーが必須だと腑に落ちた。

まつもと・だいち マーケティング、プランニングから業態開発、プロデュース業務を推進。領域は最新のSSCプランから街づくりまで及ぶ。経産省コト消費づくり委員、鎌倉市アドバイザー、IFI(ファッショントーン産業人材育成機構)講師。全国で街づくり講演や、米ポートランドのライフスタイル、街づくり研究から新たな時代潮流を発表。18年6月リアルメリックトを研究開発する賑わい創研設立。著書に『最高の商いをデザインする方法』(エクスナレッジ社)。